

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	関市西親子教室			
○保護者評価実施期間	令和6年11月1日 ～ 令和6年12月28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	64	(回答者数)	54
○従業者評価実施期間	令和6年11月1日 ～ 令和6年12月28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月13日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個々の子どもに対してアセスメントを行い、子どもと保護者のニーズや課題に合わせて児童発達支援計画を作成している。	・半年に一回、保護者、担任、児童発達支援管理責任者で面談を行い、遠城寺式発達検査を実施し児童発達支援計画・経過について話し合いを行っている。 ・面談の前に保護者にモニタリングシートを記入していただき、親子のニーズを確認している。	・面談だけでなく、保護者のニーズに応じて相談する時間を設けたり、面談での保護者の思いを丁寧に聞き取る。 ・子どものニーズや課題を客観的に分析できるようアセスメントを適切に行う。
2	・保護者や家族からの相談の申し入れについて、体制の整備をし迅速かつ適切に対応できるようにしている。	・相談の申し入れがあった場合は、療育時間以外にも話す時間を設けて対応している。 ・担当に限らず必要に応じて児童発達支援管理責任者、相談支援専門員、他の職員などで連携して随時相談を受けている。	・日頃から丁寧に保護者の話を伺う、職員から声をかけるなど相談しやすい関係をつくるよう努める。
3	・親の会活動の支援や保護者同士の交流の場を設けるなど、家族支援を行っている。	・親の会役員会や親の会OB会のサポートを行っている。 ・保護者交流会や学習会など保護者同士が交流できる場、家族で参加できるクリスマス会などの行事を親の会と共催し、実施している。行事を通して、家族同士、きょうだい同士が交流できる場となっている。	・今後も、親の会のサポートを通して、保護者の思いを汲み取りながら行事の企画や共催を行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・定期的に通信、ホームページ、連絡システム「すぐーる」で活動内容や行事予定など情報や業務に関する連絡など保護者に発信しているが、知らない、見ていない人がある。	・事業所評価などをホームページに掲載、事業内に掲示、年度始めや療育開始時に説明しているが、分かりにくいことや見ていないことから、周知ができていない。 ・今年度より、連絡システム「すぐーる」を使い保護者へ配信を始めたが、配信を見ていない保護者もいる。	・掲示物の見やすい掲示の仕方や分かりやすい説明を心がける。 ・年度始めや療育開始時の説明を掲示物など実際に見ながら丁寧に行う。 ・配信内容を見やすく分かりやすい内容となるよう検討しつつ、職員からも直接声をかける周知する。
2	・事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル、安全確保計画などを知らない人がある。	・療育開始時に説明し、常に閲覧できるように配置しているが改めて見る方はあまりいない。 ・防犯訓練や感染症対策訓練など職員のみで行うことがあり、訓練内容の報告が掲示となるため気づきにくい。	・療育開始時の説明を丁寧に行う。 ・避難訓練実施の際に訓練の報告を兼ねて再度説明する機会を設け周知する。
3	・親の会活動の活動内容を知らない、分からない人がある。	・就労している保護者が多く、平日の療育時間内に行う親の会役員会への参加者は固定されやすく、少ない。 ・行事（クリスマス会、施設見学、保護者交流会）の計画や準備など保護者と職員が一緒に行い共催しているが、親の会活動として認知されておらず、周知に至っていない。	・親の会役員会への参加がしやすよう、役員会の開催日の検討や周知を行う。 ・活動内容のお知らせや掲示を見やすい場所にし、連絡システム「すぐーる」も利用しながら周知に努める。